



アニメ NYC が開催！ 現地で日本のマンガ・アニメの人気ぶりを体感

(一財)自治体国際化協会ニューヨーク事務所 所長補佐 廣澤 由貴 (宮城県派遣)

2年ぶりの開催、アニメ NYC

2021年11月19日から21日にかけて、ニューヨークのジャビッツ・コンベンションセンターにおいて、日本のマンガ・アニメの祭典、アニメ NYC が2年ぶりに開催されました。

マンガ・アニメ関連企業や個人によるブース出展、パネルディスカッションやステージなどのライブパフォーマンス、声優との握手・サイン会などが複合的に行われました。公式発表によると来場者は3日間でおおよそ5万3,000人であり、前回(2019年、約4万6,000人)と比べて大きく増えています。コスプレを楽しむ来場者も多く、会場は終始にぎわっていました。



写真撮影を依頼すると「Hell Yes!」とキャラクターになりきって答えてくれた参加者

アニメ NYC は、以前はアメコミを含めたポップカルチャーイベントであるニューヨーク・コミック・コンベンションと同時開催されていましたが、その人気を受けて2017年以降は日本のマンガ・アニメをテーマとした単独のイベントとして開催されています。毎年その参加者数を伸ばしており、北米における日本のマンガ・アニメの人気ぶりを示しています。

アニメツーリズムをPR

クレアニューヨーク事務所では2019年に引き続き2回目となるアニメ NYC へのブース出展を行いました。ブースでは、各自治体から提供された観光パンフレット・グッズや一般社団法人アニメツーリズム協会発行のアニメ聖地巡礼マップなどにより、マンガ・アニメなどを活用した地域振興に取り組む自治体の観光PRを行いました。

ブースを訪れた方にアニメやマンガの舞台になっている地域を巡るアニメツーリズムについて説明をすると、「実際の地域が舞台になっているアニメやマンガがあることを知らなかった」、「映画や小説の舞台を巡るようにアニメの聖地を訪れるということを考えてことがなかっ



クレアブース ※開催時間前にマスクを外して撮影

た」という驚きの声と同時に、「日本に行ったらぜひアニメの聖地に行ってみたい!」という反応が非常に多く、総じてアニメツーリズムに関心を示していただきました。

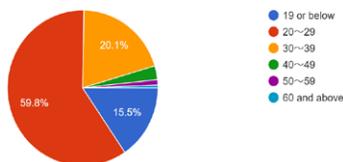


アニメツーリズムについて説明するクリア職員

アンケートの実施と調査結果

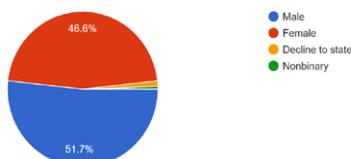
ブースでは観光 PR と同時に、来場者の訪日経験などに関するアンケートを行いました。新型コロナウイルス感染対策として接触を可能な限り避けるため、QR コードを用意し、スマートフォンから回答していただきました。スマートフォン1つで回答できる手軽さから、コスプレや荷物で身動きがとりにくい方にも快く対応していただきました。

1. Age
174 responses



回答者の年代

2. Gender
174 responses

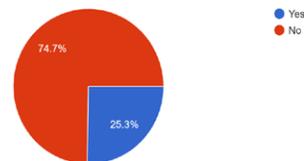


回答者の性別

アンケートには 174 名の方の協力が得られました。回答者の属性は、男女ほぼ同数で、年代は 20 代が最も多く、全体の 6 割近くを占めています。

「日本へ行ったことがありますか?」という問いに対しては、回答者のおよそ 4 分の 1 が 1 回以上日本を訪れたことがあると回答しています。日本を訪れたことがない方も、「パンデミックが落ち着いたらすぐにでも日本に行きたいと思っている」、「次の旅行は日本へ行くつもりだ」と訪日に強い関心を持っている方が多くいました。

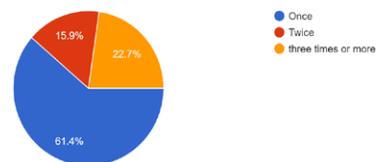
3. Have you ever been to Japan?
174 responses



日本へ行ったことがありますか?

また、日本を訪れたことのある方のうち、2 回以上訪日経験のある方は 38 %で、そうした方に聞き取りを行うと、「次は東京や京都以外の地方への旅を検討しているが、どこに行けばいいか迷っている」といった声も寄せられました。アニメゆかりの地域を紹介すると、「まさにこうした情報が欲しかった」と言って各地のパンフレットを手にとっていました。

4. If you answered "Yes" to the above question, please tell us, how many times did you go?
44 responses



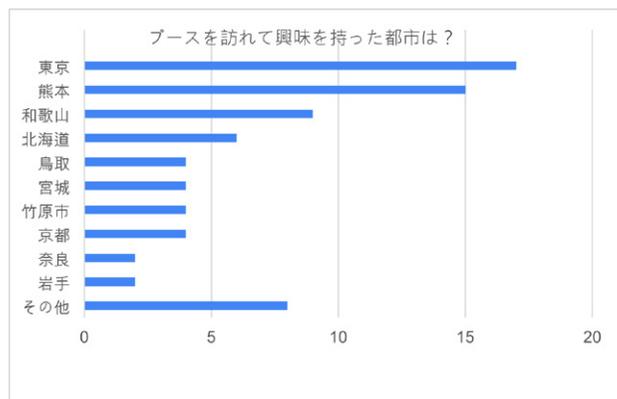
日本には何回行ったことがありますか? (訪日経験者のみ回答)

ほかに、「アニメゆかりの地と合わせてその地域の名所を巡るツアーはないか?」といった質問や、「各地の祭りや温泉地など、一般的な観光に関するさらに詳しい情報が欲しい」といった要望も寄せられました。

日本で訪れてみたい都市についての質問では、東京、大阪、京都など知名度の高い都市が上位を占めたものの、ブースでの説明を聞いて「宮城県にあるラプラスマン

ホールの写真を撮りたい]、「鳥取県のコナン空港を訪れたい」など、アニメにゆかりのある地域に興味関心を持つ方も多いという結果が得られました。

アンケートの自由回答には、「次の旅行計画を立てるのにいい情報を得ることができた」、「日本へ行きたいという気持ちがさらに高まった」、「アニメゆかりの地に行ってみたい」など、日本への高い旅行意欲を示すコメントが多数寄せられました。



ブースを訪れて興味を持った都市は？（自由回答）

おわりに

今回のブース出展では、多くの参加者が非常に熱心に私たちの話を聞き、質問してくださったことが印象的でした。新作のマンガ・アニメの紹介やグッズなどを販売する企業ブースが多数出展している中においても、当事務所のブースには3日間絶えず人が訪れている状況でした。

北米は多種多様な人が生活していることから、一般的にはイベントに出展する場合、参加者がどの程度日本に興味関心を持っているのか、また、生活習慣・文化の違いなどを踏まえて、どこにターゲットを絞ってPRするのが課題となります。しかし、アニメ NYC の参加者は当然ながら日本のマンガ・アニメのファンであり、マンガ・アニメを通じて、日本そのものにも関心が高い方が大半であることから、当イベントは日本の文化や魅力をPRする場として最適な機会の一つだと感じました。このことは、マンガやアニメをきっかけに日本の各地域に関心を持つ人が多かったというアンケート結果からもうかがえます。実際にブースで説明をしている際にも「次の旅行では熊本のワンピースの銅像巡りを2〜3日

でしようと思うが、お勧めの観光地や食事などを教えてほしい」と具体的な旅行計画を考える人がいらっしゃいました。

また、当事務所以外にも、ニューヨークに所在する日系機関・企業が多数出展しており、さまざまなコラボレーションを行うことができました。例えば日本政府観光局（JNTO）は訪日観光情報発信のブースを出展しており、アニメツーリズムの範疇を超える観光情報を求められた際に協力してニーズに応えることができました。また、JETAA（JETプログラム経験者の会）NY支部は在ニューヨーク日本国総領事館と協力してJETプログラムのPRブースを出展しており、当事務所のブースで参加者の関心事項を聞き取って、日本で働きたいというニーズのある方をご案内することもできました。



JETAANY 支部のブース

インターネットの普及やコロナ禍を経てますます日本のマンガ・アニメがアメリカでの人気を伸ばしており、今回の出展はそれを肌で感じる貴重な機会となりました。（アメリカにおけるマンガ・アニメ事情については、自治体国際化フォーラム3月号p14~p15も併せてご参照ください。）

また、マンガ・アニメファンの日本への高い旅行意欲を感じることもでき、当イベントにおけるPR効果の高さを実感することができました。

クレーニューヨーク事務所では、これからもこうした機会をとらえて現地のニーズ調査、日本の自治体のPRを行ってまいります。